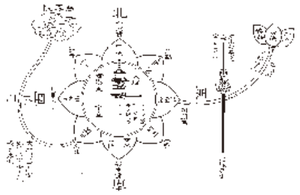
世界遺産巡礼



高野参詣起点の地

木造弥勒仏坐像《写真下》は大師以来の秘仏として三重扉の奥に厳重に安置されていた。昭和36年の調査で平安時代の寛平4年(892年)の名作であることが分かり、国宝に指定された。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」

慈尊院(女人高野・結縁寺)

高野山詣りでは、高野山の玄関である慈尊院弥勒菩薩と縁を結び罪業を消して流してから山上へ登るのが高野山への本参りとされていることから、高野山の結縁寺とも呼ばれる。当時の慈尊院は、今の場所より北側にあったが、文明9年(1540年)紀の川の大洪水にて流失。弥勒堂だけは天文6年(1474年)に今の場所に移されていたため、流失を免れた。

九度山町慈尊院832　Tel.0736-54-2214
時 8時～17時　休 無休　P あり(無料)
料 参拝自由
交 南海高野線九度山駅から徒歩約25分

弘法大師(空海)が九度山を高野山参詣の要所として伽藍を弘仁7年(816年)に創建。高野山一山の庶務を司る政所として、高野山への宿所ならびに冬期避寒修行の場とした。弘法大師(空海)の身を案じた母公は、高野山が女人禁制だったため、九度山に滞在。その後、母公没後に弥勒仏坐像と母の霊を安置したことから、この地は弥勒菩薩の別名「慈尊院」と呼ばれるようになり、高野参詣道の起点として幾多の参詣者が訪れるようになった。

多くの参拝者が「子宝、安産、育児、授乳、病気平癒」を願って、「乳房型絵馬」を奉納。弥勒堂前には布製の大きな乳房型絵馬が奉納されている。

《写真左》弥勒堂は国の重要文化財に指定。木造弥勒仏坐像と御母公像を安置するため、弘法大師(空海)が弥勒堂を創建。《写真中》みろく石を片手で撫でると、本尊の弥勒仏(弘法大師母公の化身とされている)と縁結びができる。《写真右》大師御母公像。

狩場明神と弘法大師(空海)との出会いの絵馬。狩場明神の従えていた白黒二頭の犬を放たれ、弘法大師(空海)を高野山へと導かれました。

慈尊院から石造大鳥居をくぐり、119段の石段をのぼると大きな丹塗りの鳥居があり、その先に拝殿がある。《写真右下》社頭より霊峰高野山を遥拝する事ができ、かつて入山できない女性たちはここから高野山を拝んだ。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」
弘法大師創建の社

丹生官省符神社

弘法大師(空海)によって弘仁7年(816年)に創建された古社で、高野山町石道の登山口に鎮座している。本殿は木造一間社春日造檜皮葺極彩色で世界遺産に登録されている。また、魔除の獅子頭、湯立て祓いの鼎、真田幸村が奉納したと伝えられる一文字太刀一口などの文化財を所蔵している。

九度山町慈尊院835
Tel.0736-54-2754
時 9時～17時　休 無休　P あり(無料)
料 参拝自由
交 南海高野線九度山駅から徒歩約30分

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」

高野参詣道町石道

「地」「水」「火」「風」「空」の5つの要素が宇宙を形成すると仏教では考えられており、五輪塔は、この構成要素を「方形」「円」「笠」「半月」「宝珠」にかたどったものだと言われる。

慈尊院から高野山へ通じる180本の町石が続く参詣道を、「高野山町石道」という。当時は木製の卒塔婆(そとば)を建てたが朽ちやすいため、鎌倉時代に現在の石造「町石」と取り替えられた。この道しるべは1町(約109m)ごとに建てられ、1町石のある高野山壇上伽藍まで続く。慈尊院には180町石があり高野参詣への起点となっており、かつては町石ごとに礼拝し高野山まで登ったとされている。高野七口を指す道は、町石道以外に黒河道、京大坂道、小辺路、大峰道、有田・龍神道、相ノ浦道がある。

慈尊院と丹生官省符神社の間に建てられている180町石。ここから高野山への巡礼の道のりが始まる。弘法大師(空海)が高野山開創の際、真言密教の道場として建立された高野山根本大塔まで約20キロ、徒歩で約8時間の道のり。